

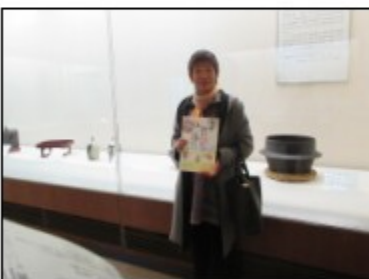
今週の活動から



2月2日(木)、日本共産党の畑野君枝・斉藤和子衆議院議員が、厚木市内の農業関係者と懇談しました。TPP問題をはじめ、農協改革、都市農業、農業と福祉の連携、農業と

教育からトランプ政権まで話題が広がりました。農林水産委員の斉藤議員は衆議院での議論の様子、畑野議員は国会の状況を語りました。1時間余りの懇談の後、2議員は国会に戻りました。

(右から釘丸久子議員、畑野君枝衆議院議員、斉藤和子衆議院議員、栗山香代子議員)



厚木市郷土資料館にポスターが貼ってあったので、町田市立博物館へ行ってみました。町田市立博物館は町田駅からバスで

14分、さらに住宅団地を通り徒歩10分近くでした。思っていたより交通の便が良かったので、行きやすく感じました。厚木市郷土資料館は厚木市唯一の博物館です。下川入の青莚小学校跡地に(仮称)あつき郷土資料館として平成30年度に完成予定です。中心市街地から大分遠くなるので、交通手段が課題です。

(栗山香代子議員)

市民防災研修会 見たくないものも目をそらさずに震災対策を

第2部 避難訓練コンサート

2月4日(土)、厚木市文化会館で、厚木市自主防災隊連絡協議会と厚木市主催の「市民防災研修会」が行われました。共催は神奈川県厚木警察署と厚木市文化振興財団です。

第1部は講演、第2部は避難訓練コンサートでした。

必ず来る地震を受け入れよう
まず市長が「地震は来る。必ず来ます。それを受け入れてほしい」と始め、具体の事例を言いつつ「防災無線は100%ではない。広報車、FM、防災ラジオなどがあるが、大切なのは近所から近所。避難勧告は早い段階で判断する。空振りでもよしとしたい。今日の研修を、地域に帰ってより多くの人に伝えてください」とあいさつ。

災害をわがこととして対策を

第1部の講演は、「見たくないものも目をそらさずに震災対策を」、講師は名古屋大学防災連携研究センター長の福和伸夫教授、専門は建築耐震工学、地震工学、地域防災です。「地震はいつ起きるか分からない。



台車の上で人間振動実験。
高く不安定だと倒れやすい。

自分は逃げやすい場所です」と、と非常口に近い、ステージ階段のそばに立って話しました。

石油、ガス、電気などの施設は海のそばに多く、災害が発生すれば供給が止まる。

日本ではこれまで、実に多くの自然災害が起きている。災害をわがことと思つて、対策を作るきっかけにしよう。

見たくないものを見ないで、対応をしないから「想定外」となる。映画「シン・ゴジラ」が話題になったが、政府の責任を分担・転嫁し合う縦割り組織と意思決定力の弱さを表している。公の力を頼っていたら何も進まないだろう。

熊本地震で西原村は震度6弱と震度7。500棟が全壊で死者5人。人口6900人、面積77㎏、役場職員66人で防災担当は1人。ポンプ車・救急車は各1台。

一方で消防団は255名、24班に各1台の消防車。全国では人口150人に一人だが、西原村は30人に一人。消防団の活動により、地震翌日の未明には全員の安否確認ができた。

みんながあきらめずに少しでも被害を減らして、次の世代に素敵なまちを残していこう。
1人の百人力でなく、百人の1人力で。

避難訓練コンサート

第2部は、神奈川県警察音楽隊のコンサート。演奏中に「緊

急地震速報」が鳴りました。演奏を中断し、シェイクアウト訓練。

事前に説明を受けてはいたのですが、緊急地震速報が鳴っても「どうしよう?」という感じ

で、お互いを見ている人が多い。指示を待っている感もある。

この場にいる人の多くは防災に関心があるはず、いったいどうしたの? 率先して避難行動をする人になることが言われているのに。

先日の議員研修で「東日本大震災で津波から歩いて避難している人が、走っているつもりだったのに体が動かなかった」との話が聞きました。

発災時には、落ち着いて、すぐ行動することが重要です。とっさにどう行動するか、命がかかっているのです。知っていてもすぐに動かないのでは、突然の地震に動けるわけなどないことを実感。日頃の訓練と意識がいかに大切かがわかりました。

演奏会終了後に、会場の外への避難訓練。出口がどこかは初めに丁寧な説明がありましたので、並んで落ち着いて外へ出ましたが、本当に地震が起きたらどうでしょう。

